

行政の窓

スマート林業の取組について

◆はじめに

本道では、カラマツやトドマツなど人工林資源が充実するとともに、素材生産量や高性能林業機械の導入台数が全国一であり、他県に比べて広大で地形が平坦である優位性を活かし、北海道ならではの林業が展開されています。

このような中、今後、森林づくりを担う人材の不足が懸念されており、限られた労働力で、適切な森林の整備・管理を進めるためには、ICT等の新たな技術の活用を一層進め、本道の豊かな森林資源の価値を最大限に引き出すことができるよう、北海道らしいスマート林業を全道に広めていくことが重要です。

◆北海道スマート林業推進方針

道では、令和3年3月に、北海道らしいスマート林業を確立するため、全国に先駆けて「北海道スマート林業推進方針」を策定しました。

本方針では、安全で効率的な森林整備と、需要に応じた木材の安定供給が図られるよう、林業・木材産業の関係者が一体となって、森林の管理経営や木材の生産・流通に関するデジタル技術の積極的な活用や、作業の省力化を進めるとともに、植林から流通に至る情報を共有するシステムの構築を目指すこととしています（図1）。

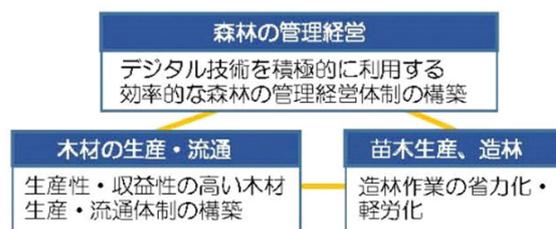


図1 スマート林業について目標とする将来像（めざす姿）

◆令和3年度(2021年度)の取組

道内の市町村や森林組合、木材関連団体、大学、研究機関、道などの産学官からなる「スマート林業EZOモデル構築協議会」では、国事業「スマート林業実践対策」を活用し、ICTハーベスタを活用した生産情報の管理や検知省略の試行、川上と川下間で生産データの相互利用など、モデル的な取組について各地域での実証を進めています（写真1）。

また、道では「スマート林業構築推進事業」により、全道各地域でICTを用いた機械等の現地実演会の開催や（写真2）、ICT機器の事業体での試行など、様々な技術の普及に向けた取組を展開していきますので、ご興味がある方は是非ご参加ください。

今後、YouTubeチャンネルで、スマート林業に関する取組実績や実演会の様子などを随時配信していきますので、是非ご覧ください。



写真1 ICTハーベスタやドローンなどを活用した実証



写真2 苗木運搬ドローンの現地実演会



（水産林務部林務局林業木材課林業木材係）